前述ノ如ク *Davallia* (*Scyphularia* ヲ含ム) ハソノ前葉體ニ於テモ 1) 兩面體胞子ノ切線發芽ニヨツテ發達シ、從ツテ基原細胞ハ球形又ハ半球形ニシテ、初生假根ハ第二位ノ細胞ニマタガツテソノ上側位ニ着生スル、2) 前葉體ハ比較的小形デアル、3) 翼細胞ノ分裂列ハ比較的明瞭デアル、4) 翼縁ノ細胞ハ等方形ノコトモアルガ長形ニナル傾向ガアリ、側方ニ突出シ、ソノ縁側ハ彎入シテ凹形ヲナス、5) 兩面及ビ翼縁ニハ腺狀突起ヲ散生シ、腺狀突起ハ乳頭狀ニシテ短ク、核ハ突起ノ中部ヲ中心ニ位置シ、帽ハ突起ノ頂ニ冠スル、6) 假根ハ淡褐色ヲナス傾向ガアリ、中褥ノ下方ニ廣ク翼部ニマデ擴ツテ生ズル傾向ガアル、7) 中褥ハ下面比較的上方ヨリ始マリ頂部生長點ニ達スル褥ヲナシ、小形ニシテ薄ク、2-4 層ノ細胞ヨリナル、8) 藏卵器ハ中褥ノ殆ンド全面ニ亘ツテ多數個生ジ、頸部ハ小形ニシテ上部ハ膨レ、前列 5-6 個、後列 3-4 個ノ細胞ヨリ成ル、9) 藏精器ハ下面底部ニ集ツテ生ジ、小形ニシテ、側面觀ハ倒卵形乃至頭狀ヲナシ、底細胞ノ上膜ハ陷沒セズシテ平坦ヲナス——等ノ諸點ニヨツテ顯著ニ標徴サレ、極メテマトマツタ一群トシテ區別サレル。

びらう ハ日本亞熱帶海岸植物デアルガ屬トシテハ東亞ノ熱帶及亞熱帶海岸地方ニ生ズル。コノ名稱ハ恐ラクびんらうじトノ樹姿ノ類似カラ來タ後者ノ名ノ轉用デアラウ。松本信廣氏 (南亞細亞學報 第 1 號 17-48 昭和 17 年) ノ考察ニヨルト檳榔ノ現代音カラデハナク、南方デ常習的ナびんろうじノ果實トきんま(蒟醬)ノ葉トヲ併セテ嚙ムコトカラ來タコノ兩者ノ水ト魚ノ様ナ連繋カラ導カレタ南アジア古代語 bĕl(u)-lang (きんまノ木ノ意) カラ直接來タトスル方ガヨササウデアル。

びろうノ日本古代語ヲあぢまさトイフ。從來ノ古イ語源考ハ問題デナイ。新ラシイ解釋トシテハ次ノ二ツガアル。藤田哲二氏 (臺灣博物學會會報第 30 卷 245 (昭和 15 年) ハ臺灣高砂族ノ語彙中ニヒントヲ得テびんろうじノ果實ナル意ノ南方印度系語ニ Ath math ナルモノヲ見出シコレト關係ガアラウトイフ。コレトハ別ニ松本氏ハ前記ノ文獻中デ支那人ガ古クカラびらうニ芭蕉ノ名稱ヲ用フルコトニ注目シテ芭蕉類ノ果實ヲ考ヘ南アジア古代語トシテ黃金色ノ蕉ナル意ノ ajoi mas ナル名ヲ檢出シコレノ轉化ガ考ヘラレルトシテ居ル。イヅレトモ決シ難イガ、コウシタ南方ノ古代語ノ解明ハ今迄不明ノ日本語ノ語源ヲ明ラカニスルモノモ相當アラウト思ハレル (前川文夫)。